
序 章

序 章

1. 福岡女学院看護大学の設置の背景と経緯

1) 福岡女学院の歴史

福岡女学院は、1885年（明治18年）に米国メソジスト教会の宣教師J・ギ・ルによって「英和女学校」として福岡に開設され、2012年に創立127周年を迎える。その間、学制の変更などにより、「福岡女学校」（1919年）、「福岡女学院」（1948年）と校名を変え、またキャンパスの所在も変えつつ、一貫してキリスト教を基盤とする女子教育を行い、女性の地位向上と我が国の近代化に先駆的な役割を果たしてきた。戦後、新憲法のもと新制の中学・高校として、戦災で全焼した校舎を再建し、更に総合学園としての発展を目指して、現在のキャンパス（福岡市南区日佐）へ移転し、次々に幼稚園、短期大学（英語科、国文科、生活科学科）、大学（人文学部、人間関係学部）、大学院（人文科学研究科）、生涯学習センターを開設した。現在、福岡女学院大学の人文学部は現代文化学科、表現学科、英語学科の3学科を、また人間関係学部は心理学科、子ども発達学科の2学科を擁し、短期大学部（英語科）を併せて、大学入学定員は現在計680名、在籍者総数2329名（2012年1月1日現在）である。

2) 看護大学の開学

国立病院機構福岡東医療センター（以下、東医療センター）は、2005年12月に、福岡女学院に対し、同センター敷地内に看護学部の設置を呼びかけた。福岡女学院はこれまで文系の大学として発展してきたが、近年臨床心理や保育など女性の実務領域の学科を開設しており、看護領域はその延長線上にあり、また建学の理念にふさわしい領域であるため、理事会は2006年2月に単科の看護の設置を決定した。そして急遽、校舎新築、カリキュラム編成、教員組織の整備等を行い、2007年12月に文部科学省より設置が認可された。認可に際し、文部科学省から特別な留意事項は無く、申請内容の履行が求められた。その後学生募集を行い、2008年4月に入学定員100名の福岡女学院看護大学（看護学部看護学科）として開学した。

3) 看護大学の完成まで

開学以来4年が経過し、本年度（2011年度）は看護大学の完成年次である。この4年間、種々の施設・設備や規程等が整備され、教員組織、事務組織もほぼ予定どおり年次ごとに充実し、カリキュラムは確実に履行された。また学生数も毎年定員を若干上回る数を確保し、2012年1月時点の在籍学生数は419名である。古賀市等、地域との協力関係も発展を続けている。

本学は付属病院を持たぬため実習施設の確保は重要な案件であったが、東医療センターをはじめ国立病院機構との連携、九州大学病院等の大学病院や福岡市民病院等の協力により確実に遂行された。実習施設の安定的確保は継続的課題であるが、第1期卒業生の就職は、実習病院を中心に完了した。

2 . 本学の特徴

本学は開学以来4年を経たに過ぎないが、建学の理念は確固とした基盤の上に据えられている。理念の詳細は次章に述べるが、大学の設置目的を要約すると、「(1)キリスト教の愛の精神に基づくヒューマンケアリングを実践できる看護職者の養成、(2)変化する時代が看護職者に期待する高度化、多様化する任務に対応し得る看護職者の養成」にある。本学の学則第1条には「本学はキリスト教に基づく福岡女学院創立の精神に則り、看護・保健医療分野の専門知識と技術を教授・研究し、あわせて豊かな教養と人間性を兼ね備えて、地域医療への寄与、人々の活力向上に貢献する看護・保健医療専門職の女性を育成することを目的とする」とある。

3 . 自己点検・評価に関する本学の姿勢

上述の学則第1条に続いて、第2条と第3条とは、それぞれ「自己評価等」及び「情報の公開」を規定するもので、本学がそれらを重視していることが示されている。即ち第2条は、「本学は第1条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行う。」であり、第3条は、「本学における教育研究」活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的にその情報を公開するものとする。」と規定している。本学が開学4年に当たるが、次年度以降の第3者機関による認証評価を受けるに先だって、ここに自己点検・評価報告書の出版と関係各位への頒布を企図したのは、この姿勢に基づくものである。

本報告書が、本学の未来への飛躍のステップボードとなることを願ってやまない。

2012年3月

福岡女学院看護大学
学長 徳 永 徹